

令和 4 年度事業報告

法人の部	p 1
太陽パン	p 2
虹工房	p 9

令和4年度事業報告

社会福祉法人 太陽の会

人員不足により多くのことは行えなかったが、以下のことのみおこなった

(1) 評議員会、理事会等

下記のとおり開催した

第72理事会 R4/6/10 R3事業報告、R3決算報告、R3監査報告

第44評議員会 R4/6/30 R3事業報告、R3決算報告、R3監査報告

第73理事会 R4/10/31 前期活動報告、前期収支報告、一般指導監査について
太陽パテント補修について

第74理事会 R5/3/2 評議員選任解任委員会の招集、評議員の解任要求、新評議員の推薦

第4評議員選任解任委員会 R5/3/3 評議員解任、評議員選任

第45評議員会 R5/3/17 寺田理事の解任、荻原理事の選任

第75理事会 R5/3/31 R5事業計画 R5予算 R5評の書面決議、経理規定の改訂

(2) 主な定例業務

以下の定例業務を行った

- ①福祉職員の処遇改善加算等の申請・報告
- ②退職掛金対象職員届
- ③工賃実績報告
- ④労働保険料届(社会保険労務士)・支払
- ⑤社会保険報酬月額届(社会保険労務士)
- ⑥社会保険賞与額届(社会保険労務士)
- ⑦時間外労働時間労使協定の届(社会保険労務士)
- ⑧給与等計算(税理士)
- ⑨給与等支払
- ⑩月次決算(税理士)
- ⑪年末調整(税理士)
- ⑫リース契約の管理
- ⑬保険契約の管理
- ⑭その他契約の管理

令和4年度事業報告

障害者と共に歩む手作りパンの店 太陽パン

(就労継続支援B型)

行動指針

1. 私たちは、一人ひとりが主役の事業所をめざします。
1. 私たちは、社会の中での生活を感じられる事業所をめざします。
1. 私たちは、「協力し合う」、「規則を守る」、
楽しく、厳しく、温かい事業所をめざします。
1. 私たちは、出来ることを一步步増やし、
社会の中で生活する力をつけるよう指導・支援します。
1. 私たちは、一人ひとりに目配り、気配りし、
気持ちが伝わり合いながら指導・支援します。
1. 私たちは、交流の場を拡げ、
社会の中で障害者への理解が進んでいくことをめざします。
1. 私たちは、指導・支援することにより、私たち自身も成長していきます。

(1) 令和4年度の振り返り

- ①「障害等の有無にかかわらず、仕事をするを通して社会参加し自身の存在価値の表明と実感を得ることを支援していきます」
→行うことができた。
- ②各人の本分を全うするためにそれぞれの作業の最適化を行います
→成長してきている。
- ③パン・クッキーの30%程度の値上げの影響
令和4年に入ってからイベントが少しずつ戻ってきたこともあるが、おおむね値上げの影響で売り上げが770万円程度あった。
値上げに起因する計算の不具合が続いている。
- ④売り上げが770万円程度あったため、来年度は工賃を増額できる見込みである。

(2) 所員の状況(令和5年3月31日時点)

13名(最高齢68歳、最年少20歳、平均46.2歳)

(3) サービス費等

- | | |
|----------------|------------------------|
| ①就労継続支援B型サービス費 | 611単位 × 出勤日数 |
| ②処遇改善加算Ⅲ | 単位合計の2.2% |
| ③目標工賃達成指導員加算 | 89単位 × 出勤日数(令和4年11月から) |

1. 就労支援活動

所員が責任を持って作業できることを念頭に置いて製造・販売を行いました

(1) 製造

① パン作業工程と所員・職員の作業割合

	作業工程	所員	職員	令和4年度の実績
1	調味(粉)	10	0	所員が行った
2	調味(味付け)	10	0	所員が行った
3	パンの捏ね	0	10	安全面、品質面の課題が残る
4	分割	5	5	所員が入る場面が増えた
5	成形	7	3	基本である、ロールパンの成型に力を入れた
6	焼き	9	1	現状どおり忙しいときは2人体制でサポートをした
7	袋入れ	5	5	分担して作業を行えた
8	仕分け	1	9	所員の入れる場面をつくれた。
9	あんこづくり	6	4	職員のサポートが必要な場面が増えた

② クッキー作業工程と所員・職員の作業割合

	作業工程	所員	職員	令和4年度の実績
1	調味	7	3	分担して作業を行えた
2	生地作り	0	10	職員がすべてを行った
3	計量 成形	8	2	分担して作業を行えた
4	焼き	9	1	忙しい時は2人体制でサポートした
5	袋入れ	7	3	所員が行った
6	袋入前一時保管	7	3	分担して作業を行えた
7	在庫数管理	0	10	職員がすべてを行った

(2) 販売

① 販売の流れと所員・職員の役割

	販売の流れ	所員	職員	令和4年度の実績
1	準備	8	2	所員、職員共に連携して行えた
2	会計 袋入れ	8	2	所員が責任感をもって行えた
3	接客	6	4	所員が責任感を持って行えた
4	集計	0	10	職員がすべてを行った

② 販売形態

a. 店頭販売(太陽パン店舗前で所員が販売)

ワゴン

b. 出張販売（販売先で所員・職員が販売）

〔毎週〕アシスト21（火）、ウェル戸畑（木）、富士通（水）穴生学舎（打合せ）

〔月1回〕~~まごころ、イオン~~

c. 納品（販売先に商品を所員・職員が届ける）

〔週2～3回〕~~JCHO九州病院~~、杉の実保育園、中央しおり保育園、
高見の森保育園

〔月1～2回〕ビストロR、BOCCHI、あおとり、八幡小児童クラブ

永犬丸西児童クラブ ポッチ ふじた茶屋、療育センター西部分所
ベリーフィン

〔年1回、不定期〕金剛山寺、~~皿倉ウォーク~~、高見の森保育園、槻田杉の実保育園、エ
コタウン、かけっこ、ちいさいおうち保育園
則松社協

d. バザー イベント（販売先で所員 職員が販売）

「4月」荒生田フェスタ、黒崎マルシェ

「5月」皿倉ウォーク

「7月」高齢化バザー エコタウンまつり

「9月」ソロプチミスト

「10月」穴生学舎大学祭、サニーライフ、黒崎マルシェ、

「11月」視覚特別支援学校バザー

「3月」黒崎シュガーパンまつり

（3）洗剤

売上を上げるため、「ほっとホワイト」の販売継続

3. 福祉活動

（1）健康管理

所員の健康の維持、促進のため次のことを行いました

- ① ~~健康診断~~（コロナ騒動のため行わなかった）
- ② 体重測定
- ③ 服薬管理
- ④ 健康状態の観察・把握（体調面を考慮しての作業調整）
- ⑤ 歯磨き支援
- ⑥ 衣類調節等の支援
- ⑦ トイレ誘導（排泄状況の把握等、声掛けも含む）

（2）研修

a. 研修旅行

①コロナ騒動のため行えなかった

b. 施設研修

①施設研修の実施（コロナ騒動のため行えなかった）

②防災施設見学と体験（コロナ騒動のため行えなかった）

(3) 親睦

他者との交流により親睦を深めていきます

①忘年会（12月）

(4) その他

手話歌については、要請により各イベント等で活動します

①手話歌コンサート出演

②スクールコンサート出演

③そば打ち体験（2月）（水盛さん体調不良のため延期）

4. 支援活動

(1) サービス管理

家庭との連絡を密にし、支援内容の充実を図った

①個別面談（所員とのみ行った）

②家庭訪問（必要に応じて）

③自宅への送迎（体調面を考慮したうえで不良時）

④保護者への連絡（連絡帳でのやりとり）

⑤事業所との面談（各種サービス事業所との連携）

⑥出勤状況、作業内容の記録

(2) 職業指導

所員個々に応じた作業内容の確認と助言を行った

a. 製 造

①パン・クッキーの作り方の助言

・各種別のパンの作り方の助言

・調味、粉はかりの仕方の助言

②作業に使用する道具等の使い方の助言

・各種袋入れルール

b. 販売

①接客マナーの助言

②販売用紙の記録方法助言

③会計について助言

(3) 生活支援

所員のＱＯＬ、自立生活に向けての支援を行った

- ①身だしなみ、衣類調節等の支援
- ②小遣い帳の記録（随時）・小遣いの使い方支援
- ③時計の見方
- ④バス通勤の指導・支援
- ⑤意思伝達、会話等の支援
- ⑥連絡帳
- ⑦個別ノートによる記録物の支援
- ⑧家庭での過ごし方などの傾聴
- ⑨携帯電話の使い方の助言
- ⑩人間関係、他者とのコミュニケーション方法の支援
- ⑪相談等への傾聴
- ① 「手をつなぐ」誌の購読（未実施）
- ② 各種必要とするサービスへの情報提供と支援

5. 地域活動 ※コロナ騒動のため中止

(1) 祝町拠点

- ①リバーサイド荒生田（クッキー注文など）
- ~~②筑豊市場~~

(2) 祇園町拠点

- ~~①前田さくらまつり~~
- ②八幡中央高校との交流
~~文化祭、体育祭~~
- ~~③ウォーキング清掃~~
- ④公園清掃
花植え（6月 11月）
- ~~⑤町内盆踊り会参加~~
- ⑥ワゴン販売

(3) その他

6. 研修・防災

(1) 研修（職員会議の延長として行えた）

結果として、「生きざま」「働き方」がメインテーマとなった

令和4年度 実績	4月	店長さん急変 のため中止	「高次脳機能障害になっても働く」ことを通して、「生きる」ということを考える
	5月		
	6月		
	7月		
	8月		
	9月		
	10月	店長さん逝去 による混乱の ため中止	太陽パンと共に歩んだ40年超の生きざまから「生きる」を学ぶ
	11月		
	12月		
	1月		
	2月		
	3月		

(2) 防災

防災に関する意識を高めると共に定期的な防災訓練を行った

①火災訓練

所内にて単独の避難訓練を行った。(9/28)

②防災訓練(3月頃)

福岡市防災センターにて火災・地震・水害の訓練を行う予定だったが、コロナ騒動で中止。所内にて避難訓練を行った。(3/15)

7. 保護者会

実施しなかった(個別に対応した)

8. その他

(1) 職員の健康管理

- 健康診断

(2) 職員会議等

毎日行えた

令和4年度 太陽パン行事

4月	荒生田フェスタ
5月	実習受け入れ
6月	黒崎マルシェ 花壇花植え
7月	
8月	パン作り交流会
9月	消防点検、避難訓練 感謝の品送付
10月	穴生学舎大学祭、サニーライフ 黒崎マルシェ
11月	視覚特別支援学校バザー、 店長さん葬儀
12月	大掃除 忘年会
1月	店長さん四十九日法要 書初め 鏡開き
2月	
3月	黒崎シュガーパンまつり 避難訓練

「行動指針」

1. 私たちは、一人ひとりが主役の事業所をめざします。
1. 私たちは、社会の中での生活を感じられる事業所をめざします。
1. 私たちは、「協力し合う」、「規則を守る」、楽しく、厳しく、温かい事業所をめざします。
1. 私たちは、出来ることを一歩ずつ増やし、社会の中で生活する力をつけるよう指導・支援します。
1. 私たちは、一人ひとりに目配り、気配りし、気持ちが伝わり合いながら指導・支援します。
1. 私たちは、交流の場を広げ、社会の中で障害者への理解が進んでいくことをめざします。
1. 私たちは、指導・支援することにより、私たち自身も成長していきます。

1. はじめに

(1) 令和4年度の総括

- ① 6月13日～24日の平日10日間、法人になって初めて特別支援学校の実習生を受け入れた。不登校傾向との事だったが6日出勤でき、進路指導の教員から喜ばれた。今後も実習生の受け入れをお願いされた。
- ② 5月に、みやこ町にあるB型事業所“シーズ”に紹介してもらった有限会社シームを訪問し、園芸用資材の検品・封入作業ができるようになった。所員からも好評で、シームからも信頼を得られるようになった。単価の良い品も任せてもらえるようになった。
- ③ 新型コロナウイルス感染予防の為に1日2回の検温と血中酸素濃度の測定・アルコール消毒を徹底した。8月に所員1名・1月に職員1名が感染した。
- ④ 7月23日に企救丘小学校で行われた夏祭りに初めて参加した。3年ぶりの開催ということで賑わっていた。所員が作った水引のアクセサリーが小学生に人気だった。
- ⑤ 11月5日・6日城野市民センター文化祭バザーに出店した。パウンドケーキとクッキーが昨年に続き好評だった。今年も近くの小学生が可愛い売り子さんになってくれた。
- ⑥ 12月24日城野市民センターの福祉餅つき会に参加した。火起こしから参加し、地域の方たちに馴染んでいた。
- ⑦ 昨年10月下旬からパート職員の産休の間1年契約で働いていたSさんが契約期間満了のため退職した。復職する予定だったパート職員も家庭の事情で復職できなくなった。ハローワークに求人を出しているが未だに本採用に至っていない。現在は忙しい時など以前勤務していたパートさん達にお願いして手伝ってもらって

いる。ハローワークからの紹介を待ち所員たちと相性の良いパート職員を採用したい。

⑧所員のかかりつけの歯科医院や職員の行きつけの美容院に手作り品を置いてもらえることになった。楽しみにしてくれている患者さんやお客さんがいるとの事で所員も意欲的に制作している。

⑨所員が通院している病院の透析室近くに事業所のリーフレットと利用者さん募集のチラシを置いてもらえるようになった。リーフレットがなくなるのが早く、事業所に関心を持ってもらえているようである。

⑩一丁目の元気に手作り品をおいてもらえるようお願いに行ったが「このままではバザー品であり商品ではない」と言われた。もっと市場調査をするようにとアドバイスをもらった。外部の人に相談したり、職員が水引教室に参加したりして所員と職員とが試行錯誤を繰り返し新しい作品を意欲的に制作している。3月には芦屋に新しくオープンした雑貨店（イリマガ）に作品を置いてもらえることになった。既に数点売れたと連絡があった。店主から色々とアドバイスを受け新しい作品作りにチャレンジしている。一丁目の元気にも再度お願いに行く予定である。

⑪今年度も事業所内では職員の勉強会を行ったが、新型コロナウイルスの影響で外部研修には1度も参加していない。

⑫在宅就労が利用でき事業所の収入は安定したが、下請けの収入だけでは工賃の支払いが難しくなっている。バザーなどが開催される時には積極的に参加したい。また、新しい作品づくりや作品を置いてもらえる所の開拓も必要である。

⑬所員の高齢化が進み来年度には満80歳を迎える者もいる。通所を生きがいに自立した生活を続けているが、若い所員の新規利用に繋がるような魅力的な作業を開拓したい。

（2）所員の状況

	男性	女性	計
4月	8名	3名	11名
5月	8名	3名	11名
6月	8名	3名	11名
7月	8名	3名	11名
8月	8名	3名	11名
9月	8名	3名	11名
10月	8名	3名	11名
11月	8名	3名	11名
12月	8名	2名	11名
1月	8名	3名	11名
2月	8名	3名	11名
3月	8名	3名	11名

- ・ マツバ杖を使用しているHさんが、膝折れが原因での転倒が続いたため前年度から定期的にリハビリ入院をしている。足の運びも随分よくなったとの事で今年度は5月・7月・10月・2月にリハビリ入院をした。
- ・ 昨年度から3名(男性2名・女性1名)が通所と在宅就労支援の併用利用を開始している。出勤率アップにつながっている。

2. 就労支援活動

(1) 作業

a. アーランド

① フィルターの袋詰め

- ・ 換気扇
- ・ エアコン
- ・ バスポンプ
- ・ 洗濯機

② フィルター以外の袋詰め

- ・ 補修テープ
- ・ 滑り止め

b. コマツパッケージ

① 湖月堂の箱作り

② 湖月堂以外の箱作り

- ・ すずかけ
- ・ ツマガリ

③ 仕切り組み

- ・ すずかけ
- ・ ツマガリ

c. シーム

- ・ 園芸用資材の検品・封入

d. 手作り品制作

- ・ 水引細工

[エピソード1]

- ・ シームの検品作業が新たに加わり、喜んで作業をしている。検品数が多いので「こうした方がやりやすいよ」「こうした方が早くできるよ」などと言いながら、皆で協力して作業をしている。

3. 福祉活動

(1) 健康管理

健康な生活を長く過ごせるように変化を見ながら支援した。

- ① 健康診断（3月17日18日）
- ② 体重測定（毎月料理教室時）
- ② ラジオ体操（不定期）
- ③ 体温測定・血圧測定・血中酸素濃度測定（毎日出勤時・昼食後の2回）

(2) 1泊研修旅行

新型コロナウイルスの影響で中止した。

(3) 親睦

所員と職員間、所員間、職員間の関係向上を図るために行った。

- ② 忘年会（12月29日）
- ④ 新年会（1月4日）
- ⑤ 昼食会（3月17日）

毎年楽しみにしている親睦バーベキューや茶話会も中止した。

今年度も新型コロナウイルスの影響で研修旅行などが中止になったため、所員の健康診断後ジョイフルで“お疲れ様”の昼食会を行った。

[エピソード2]

- ・健診では皆で数値を言い合いながらお互いの健康を気にかけていた。A1Cや血糖値の数値がオクラを食べたら下がったと聞くと事業所でオクラブームが起こっている。カロリーや糖分などを気にする者が増え、今まで以上に健康に気を付けている。
- ・コロナも5月から5類になるので、1泊研修旅行に行きたいと訴える所員が数名いる。様子を見ながら前向きに考えたいと思う。

4. 支援活動

個々人の特性に応じた支援を続けていった。個々人への支援と全体のバランスが難しい課題だ。

(1) サービス管理

本人が望む生活を続けられるようにサービス管理を続けた。

- ① 支援計画書作成（6月・12月）
- ② モニタリング（1～2か月ごと）
- ③ カンファレンス（受給者証更新月など随時）
- ④ 相談支援事業所の相談支援員との連携（随時）
- ⑤ 自宅への送迎（体調面・安全面を考慮したうえでの）
- ⑥ 保護者への連絡（随時）
- ⑦ 出勤状況・作業内容の記録（毎日）

(2) 職業指導

働く意味・意義を知るため、また、障害を持った人が行きていく力を付けるために次の事を行った。

①完成品の質向上の為の検査を指導

- ・ミスを少なくするために自分たちでチェックする。
- ・集中力を付ける、集中力を鍛える。

②職業行動支援

- ・職場でのふるまい方。
- ・距離感。
- ・融通が利くか等。

(3) 生活支援

健康的で自立した生活をするために次の支援を続けた。

特に②について、受診を嫌がる人がいるので定期的に受診を薦めた。

また①と②を併用して支援を続けた。

①服薬チェック（毎日）

②通院勧奨（随時）

③金銭管理（小遣い帳記入・随時）

④買い物支援（おもに月・水曜日）

⑤身だしなみ指導（清潔感のある服装・場合によりコインランドリー同行）

⑥S S T（ソーシャル・スキル・トレーニング）

＊S S Tとは・・・人が社会でほかの人と関わりながら生きていくために
欠かせないスキルを身につける訓練のこと。

次のようなことを随時行った。

- ・適切なタイミングで適切なあいさつの言葉を発する事が出来るようになる。
- ・「ありがとう」「お願いします」等の言葉がスッと出るようになる。
- ・一つの商品を皆で協力して作り上げる。

⑦バス通勤の支援

[エピソード3]

- ・今まで金銭管理が上手くできず生活費が足りなくなっていた所員が、金銭管理が少しずつ出来るようになってきた。声掛けをこれからも続けたいと思う。
 - ・血圧などを測ってもらってもスッと「ありがとう」と言えなかった所員が以前に比べると言えるようになってきた。継続して声掛けをしたい。
-

5. 地域活動

昨年度に引き続き、地域との繋がりを大切にした。

- (1) 以前は毎週2回（月・木）事業所近くのゴミ置き場・周辺のゴミ拾いを続けていたが、今年度も新型コロナウイルス感染予防のため不定期に行った。ゴミ置き場の清掃は、ゴミ収集後に所員が率先して行っている。

(2) バザー等への参加・見学

今年度は新型コロナウイルスも落ち着きを見せ始めたため7月 23 日に3年ぶりに企救丘小で夏祭りが開催された。企救丘小への出店は初めてだったが、好評だった。

3月26日に企救丘小で開催される“桜まつり”にも声をかけてもらえた。

7月に開催される城野夏祭りにも参加の予定だったが、台風のため中止になった。

11月5日6日の城野市民センター文化祭バザーに出店した。

3月26日企救丘桜まつり出店予定。

(3) 城野市民センター活動への参加

9月3日紫川清掃参加

10月22日市民センター周辺清掃参加

12月24日福祉餅つき会参加

文化祭バザー時に事業所のリーフレット配布

(4) 利用者の紹介を依頼するための繋がり

①相談支援事業所

②区役所・保護課就労支援担当

③ホームレスサポートセンター

[エピソード4]

・今まで城野夏祭りには参加したことがなかったが、城野まちづくり協議会の事務局長さんが「今年も出すやろ？」と参加申込書を持参してくれた。地域の行事には毎回参加していると思われることに驚くと共にいつも気にかけてもらっていることに感謝した。

・企救丘小のバザーでは、率先して準備や販売をしてくれる所員がいた。たくさん売れたので嬉しそうだったが、ずっと立ったままだったので翌日から腰が痛いと言っていた。気遣いが足りなかったと反省した。

・城野のバザーでは、最終日に投げ売りのようになり、お客さんから「要らない物みたい」と言われた。所員は「残るよりも売りさばいた方がよいと思った」と言っていたが、ある程度の値段設定は必要だと思った。

・紫川清掃では、高齢の所員が一生懸命にごみを拾っていた。地域の方々から「ありがとう」と言われ喜んでいた。福祉餅つき会に参加したときは地域の方々に馴染んで一緒に写真を撮っていた。できた写真を嬉しそうに皆に見せていた。すっかり地域の一員になっている。

6. 研修・防災

(1) 職員研修

a. 社内

毎月勉強会を行った。(6月、11月、2月は未実施)

b. 社外

今年度は新型コロナウイルスの影響で社外研修には参加しなかった。

月	内容
4	大人の発達障害
5	大人の発達障害 仕事の悩み
6	未実施
7	就労 B 型工賃の下限の決まりについて
8	北九州市集団指導①
9	北九州市集団指導②
10	広汎性発達障害仕事の悩み
11	未実施
12	「わかりやすさ」とは？
1	本当の障害とは何なのか？
2	未実施
3	ADHD・ASD セルフチェック 対応策のヒント

(2) 防災・救急

a. 防災による短縮

(1) 市内小中学校が短縮の時や避難準備発表の時は短縮とした。

9月6日・台風接近の為閉鎖

12月23日・1月24, 25日積雪のため短縮

b. 防災訓練

①事業所での避難訓練（7月21日）

②事業所での火災訓練（3月7日）

[エピソード5]

- ・「積雪のために閉鎖」と連絡を受けた所員たちは「えっ？」と不満気だったが、雪が溶けたため開所の連絡をすると喜んで出勤した。所員たちには通所が生活の一部であり生きがいでもあるが、気を付けてゆっくり来ようにと伝えても連絡後すぐに慌てて出勤するので連絡をするタイミングに気を付けないといけないと思った。
-